

湖都通信

59

2009.3.26

滋賀医科大学同窓会「湖医会」



『湖医会賞』受賞者	2～3
関東支部会報告記	4～5
訃報	6
留学私話	7

開業医	8～9
看1期生卒後10年同期会	10
保健師部会	11
総会報告	12～13
LITTLE WINDOW	14

2008年度総会 会則の改正と役員選出規程を承認

今回の会則改正では、学生の正会員化に伴う会員としての権利義務等を明確にし、役員の選出方法や任務についても見直しました。

「役員選出規程」を新たに設け、役員の選出方法を明確にしました。

(詳細は12～13頁)

平成20年度「湖医会」会員名簿発行

会費過去3年分(05,06,07年度分)お支払いの方に送付しています。

役員改選が始まります

2009年度は役員改選の年にあたります。

昨年 of 総会で決まった役員選出規程に沿って

- ・選挙の公示
- ・立候補の受付
- ・所信表明の開示
- ・総会での選出

という順に進めて行きます。

これらのお知らせは主にメールとホームページで行う予定です。



…これを機にメールアドレスの登録をお願いします

「臨床は研究、研究は臨床」 ひとりの患者さんから世界の患者さんへ



武蔵野赤十字病院消化器科 部長 朝比奈 靖浩 (医8期生)

このたびは名誉ある『湖医会賞』を頂戴し、大変光栄に存じます。私は滋賀医科大学を卒業後、すぐ母校を離れて臨床や研究に従事して来ましたが、このように母校を離れて仕事をしている者にまで目を向けて評価していただき大変感謝しております。また若鮎祭と共催で行われた受賞記念講演会では、馬場忠雄学長や島田司巳名誉教授のご臨席も賜り、同級生たちに見守られながら母校で講演させていただいたことは一生の記念になりました。今回の受賞理由の一つには、「一般病院に勤務し日々の臨床業務をこなしながら、patient oriented の臨床研究を行い世界的成果を挙げた」ことが指摘されています。そこで、これまで私が考え、行ってきたことをご紹介させていただき、まだまだ達成するにはおよびませんが、私がめざしている臨床医の姿を感じていただければ幸いです。

私は、卒後すぐ東京医科歯科大学第二内科に入局しました。同科には滋賀医科大学の出身者はひとりもおらず、母校の名前を汚さないよう緊張して研修に臨んだのを覚えております。2年間の初期研修を受けた後、同科の消化器グループに所属しました。消化器を選んだ理由は臨床が好きだったからで、とくに患者さんが多いことに加え、内視鏡などの手技が沢山あったからです。ですから入局以来、消化器内視鏡や腹腔鏡などの手技を修得することに精力を注ぎ、それは今でも変わっていません。しかし教室には、臨床はもちろん、それのみならず研究も旺盛に行うという、いわば「汝、器用貧乏になることなかれ」という雰囲気がみなぎっていました。したがって、私も自然と肝臓病学の研究に従

事するようになりました。

私が滋賀医科大学を卒業した1988年当時、まだC型肝炎ウイルスは発見されておらず、慢性肝炎や肝癌の原因の大半がまだ分かっていない時代でした。しかし、翌年の1989年にC型肝炎ウイルスが発見され、これまで非A非B肝炎といわれていたほとんどがC型肝炎であることが判明し、いろいろなことが分かってきました。このことはまだ研修医であった私にまで強いインパクトを与えたのであります。そして、B型重症肝炎の患者さんの診療を契機に、当時助手でいらした榎本信幸先生（現山梨大学第一内科教授）のお導きもあり、ウイルス肝炎の研究に傾倒するようになりました。その後、米国コネチカット州に留学する機会を与えられ、肝臓への遺伝子導入や肝炎に対する遺伝子治療の研究に没頭し、研究に対するものの考え方も学ばせていただきました。留学も2年半を過ぎた頃、入局以来お世話になっていた現武蔵野赤十字病院副院長の泉並木先生が、アメリカまでわざわざスカウトにいらっしゃり、そのお誘いを受け武蔵野赤十字病院で働くこととなりました。

帰国後、現在の病院に勤務する際に大切にしていたことは、米国で培った「研究を臨床に役立てる」という精神です。すなわち、ひとりひとりの患者さんを大事に治療しながらその個別の結果をまとめ科学的に解析し研究する。そして、その結果を次の患者さんや日本あるいは世界の患者さんたちに役立てたいと考えました。患者さんの幸せを考えた場合、ベンチトップのin vitro で得られた基礎的知見を臨床現場に応用し橋渡しする研究が重要と考え、実際の患者さんの身体の中では何が起こって

いるかを突き止めて、病態解明や治療法を開発する努力をしてきました。一般病院でこのような研究をするのは困難もありますが、逆に沢山の患者さんが来れるといった特性を生かすなど、工夫をして研究をしてきました。幸い、ウイルス肝炎における基礎研究の進歩という追い風もあり、泉先生をはじめ有能な当科の先生方とともに臨床研究を進め、病態解明や新しい治療法の開発に成果を上げることができ、最近では日本国内のみならず世界でも認められるようになりました。ともすれば、「研究」は狭い領域のみに入り込みがちですが、臨床医である以上、私の場合は臨床研究を通して肝臓病を深く掘り下げ、それを軸足にして患者さん全体を見つめるように心がけております。

現在のところ、当科は一般病院では珍しく学会や厚生労働省における重責を担うまでになり、気がつくともスタッフも増え、全国の大学や病院からの見学も絶えない状況となりました。このように私がめざしている臨床医の姿は、まさしく滋賀医科大学が建学以来培ってきた「確固たる倫理観を備え、科学的探究心を有する医療人をめざす」という精神であり、私の原点は滋賀医科大学で学んだことにあると思っています。私を育てくれた母校に感謝しつつ、今回の受賞に恥じないように、さらに臨床・研究に励む気持ちを新たにしております。今後とも皆様のご指導とご鞭撻を賜れば幸いです。



『乳がんの早期発見と新技術 ～ 夢(dream)と挑戦(challenge) ～』



ちば県民保健予防財団総合健診センター 診療部長 **橋本秀行** (医10期生)

この度は、第7回『湖医会賞』を受賞させていただき、身に余る光栄と感じております。本当にありがとうございました。ご推薦いただきました九嶋亮治先生(6期生)、中島正之先生(8期生)、これまで私の臨床や研究を支えて下さった多くの方々にこの場を借りまして感謝申し上げます。出身大学から評価を頂くことが本当に成長した証しになるとある先輩から伺ったことがあります。やっと一人前になった気持ちで、今後もこの賞に、そして滋賀医科大学の卒業生として恥ずかしくないように精進したいと思っております。本当にありがとうございました。

私は1990年に滋賀医科大学を卒業(10期生)し、千葉大学医学部第一外科に入局しました。一般外科の研修後、女性における癌の中で最も罹患率が高く、年々、増加の一途をたどっている乳がんを専攻しました。現在は健診センターに所属し、乳がんの早期発見・早期治療を目指して、健診と診断、治療を行っています。

早いもので卒業して18年が過ぎてしまいました。皆様にこれと言って誇れることは何もないのですが、大学時代から今まで大切にしてきた言葉があります。それは、“夢”を持ち続け、実現のため“挑戦”を忘れないように心がけることです。学生時代は水泳部に所属し、西医体で金メダルを目指し、トライアスロンで完走すること、国体に出ること等々……多くの目標、目標というよりは夢と言った方がよいかも知れませんが、を持ち続けました。叶え

られなかった夢も多くありましたが、達成するためには失敗を恐れず、前に進むことが大切であると考えてきました(してきたつもりです)。このようなことを書いてしまうと優等生や自慢話で終わってしまいますが、残念ながら学問の方では夢を全く語れず、真面目な学生ではなかったような気がします。現在、私の医師としての夢は、「乳がんで亡くなる方を限りなく少なくする、できれば“0 (ZERO)”にすることです。

乳がんに限らず「がん」の死亡率を下げるには、今のところ早期発見・早期治療しかありません。早期発見には、ご存知のように健診を受けることが最も有効です。私が医師になった頃、乳がん健診と言えば「視触診」でした。別の言葉を使うと「触診して分かるような大きさになるまで発見できない」と言うことです。近年、我が国にも乳がん健診にマンモグラフィという画像診断が導入されるようになりました。欧米では、乳がんの罹患率が高いという理由もありますが、1960～70年代から使われており、死亡率減少効果も出ています。私は英国に留学した際、日本との大きな差に驚かされました。しかし、このマンモグラフィ健診は、日本人にとって不向きな人がいることも分かってきました。乳がんであっても写らないのです。欧米人ではほとんど問題にならないのですが、閉経前で日本人女性のように乳腺密度の高い人には、マンモグラフィでの早期発見が難しくなります。そのため、超音波検査を使った健診が望ましいのですが、わが国の現状では、対応でき

る施設や医師・技師が足りないため、まだ実施されていません。千葉県では、全国に先駆け超音波検査とマンモグラフィを併用した健診を開始しました。この方法が我が国のスタンダードになるかは、今後のデータ集積や解析によって決まってくると思われま

す。最後に夢の話させて下さい。先日の受賞記念講演の際、自分の研究(夢)がやっと実現したことをお話ししました。“firefly”(ホタル)の様に乳がんが光る!という研究です。と言っても昆虫博士になったのではなく、超音波検査の弱点(見えない、または、見えにくい)と言われている「微細石灰化(1mmより小さなカルシウムの沈着)」がキラキラ光るような装置を共同研究で開発しました。世界で初の試みです。乳がんの専門家を志した頃より、微細石灰化が超音波検査で見えればどんなに良いかと思っていました。特に患者さんにとって、石灰化の診断(組織診断をする際の針の誘導)や温存手術の切除範囲の決定等、大きなメリットが存在します。3年間の研究を経て、昨年より市販されている装置に搭載されることになりました。その名称は、前述しましたが、“firefly”、“Hotaru(蛍)-image”と名付けました。ご興味のある先生は、是非一度お試しください。

最後になりましたが、今回の受賞を誇りに思い、今後も滋賀医科大学の卒業生として、胸を張れるように努力していきたいと思っております。

本当にありがとうございました。今後もし指導よろしくお願い申し上げます。



関東支部会報告記

vol. 10



『10年ひと昔』と言いますが、関東支部会がスタートして今回は10回目になりました。
渡辺「湖医会」会長や馬場忠雄滋賀医科大学長もお祝いに駆けつけて、一段と盛会になりました。
第8回からは、関東支部会のご配慮により学生の参加も可能になり関東一円のみならず東日本の
恩師・同窓生・学生が一堂に会し親しく交われる場として、今後の活動が期待されています。

～関東支部会開設10周年、
おめでとうございます～

「湖医会」会長 渡辺一良



昨年は10周年の節目にあたり、近江からは馬場学長はじめ、私も「湖医会」会長として参加させていただきました。
当日は、懐かしい顔やフレッシュな顔もあり、また卒業生2名による講演会も聞き応えがあり、たいへん盛況な会となりました。

学長は支部会を各地に育て上げ、充実させていくことが大切だと熱心に説かれ、関東会にはこれからも毎年大学の三役など幹部が参加するようにしたい、と言ってくださっています。日程や内容など決まりましたら、事務局へ知らせてください。

さて関東会に出るといつも思うのですが、同窓の皆が集い、旧交を温め、将来に活かす会合でありながら、参加者がみな楽しんでいるのを感じます。このことは当たり前のようですが、じつはなかなか難しいことです。これも関東支部会発足当初より幹事を続けてくださっている久保田先生をはじめとした古参の皆さんの運営方針と、番頭役の河崎先生のおかげだと感謝しています。本学の卒業生や関係者の、東日本における拠り所としてこれからもよりよく願っています。

また関東会に做って他の地域でも、草の根運動的に“卒業生集まろう”という支部会発足に機運を盛り上げていきませんか？「湖医会」として全面的に協力しますので。

～ますます発展する関東支部会～

ふしみクリニック 院長
伏見 昌樹（医1期生）



8月23日猛暑の中、恒例の第10回「湖医会」関東支部会が、新学長、渡辺同窓会会長そして高橋名誉教授をゲストにお招きして開かれました。

学長は大学の現状と附属病院開院30周年記念事業や滋賀医大の展望について熱く語られました。渡辺会長は「湖医会」の近況と現在最も活発な関東支部会に対する今後の期待を述べられました。

講演は獨協大学下田教授の『向精神薬のテイラーメイド処方について』と徳島大学西村教授の『阪神淡路大震災の検死分析について』でした。

勉強会の後はいつものように楽しく懇親会が開かれました。関東支部会がいつも大盛況なのは、幹事のアイデアで夏休み中に開くことで、本学医学生や看護学生らを広く招待することができ、若い人達との交流がうまく計れてきた結果だと思います。OBの先生方の関東での活躍や成功を直に生で聞けるよい機会になっていると実感しています。これからも毎年たくさんの方々に参加できるように関東支部会を応援して下さい。

PS 実はかくれ同窓会が横浜で開かれました。ラグビー部OBが沢山集まって大変な騒ぎでした。テニス部の私も飛び入りで参加しましたが、今後はこのような会があったことも是非『湖都通信』に報告したいと思います。

～関東支部会10周年に参加して～

滋賀医科大学長 馬場 忠雄



今回、「湖医会」の関東支部会10周年が開催されるとのことで、是非出席してご挨拶を申し上げたいと、渡辺一良同窓会会長にお願いしましたところ、関東支部幹事久保田亘先生にもご許可をいただき出席いたしました。同窓会副会長金子均先生は3～4ヶ月に一度大学にお見えになり、同窓会の動向や卒業生の活躍状況をお知らせいただいております。その折りに、本学卒業生も約3,500名となり、また開学34年になるので、「湖医会」の本部と共に、卒業生の多い地区に各支部を置いて、「湖医会」の組織を徐々に確かなものにするべき時機になっていると申し上げていたところ、関東では有志の方が音頭を取って支部会を作り、今年は10周年を迎え、下田和孝獨協医科大学精神神経学教授と西村明徳徳島大学大学院感覚運動系病態医学講座法医学分野教授のお二人が講演される企画があり、多数の参加者があるとのこと、この機会に大学の現状を紹介することにいたしました。

当日、会場の品川プリンスホテル品川大飯店には、大勢の卒業生や在学生も見られ、渡辺一良会長や高橋三郎名誉教授もご出席になって盛会に行われました。私は本学の現状と10月に附属病院開院30周年記念事業を行うことを紹介しました。そして、関東支部のように県や地区単位で「湖医会」の支部活動が活発に行われることを期待していることを申し上げました。翌日海外に出発する予定があったため、下田教授のご講演をお聞きして退席しました。今後、「湖医会」の支部が結成され支部総会が行われることがあれば、大学からは是非出席して近況をご報告したいと思っております。同窓会員が本学卒業生としてのアイデンティティを持って、「湖医会」及び支部活動を通してますます活発に活躍されることを期待しております。

河崎外科胃腸科 院長

河崎幹雄（医8期生）



左:河崎先生、右:加藤先生

関東支部会が10周年を迎えることができ大変嬉しく思います！初めのうちは「10年間は幹事を続けよう」と思っておりましたが、毎年皆さんの明るい笑顔を見ていると「やって良かった・・・」。来年も来て良かったと思って頂けるよう頑張ろうと・・・と思う中、あっと言う間でした！ひとえに久保田先生、加藤先生、河野先生、中山先生をはじめ諸先生方の御協力と同窓会本部、「湖医会」事務局の全面的なバックアップに因るものと大変感謝しております。

ところで、今年の3月に20年目の同期会が行われ、大変楽しみです！関東支部会も20周年を会員に期待されるよう続けて行きたいと思えます！本当に有り難うございました。そして、今後とも御協力よろしくお願いします！

名誉教授(精神医学講座)
埼玉江南病院院長

高橋 三郎

8月23日、「湖医会」関東支部会に初めて出席した。
50人を超える出席者があり盛況だった。

今回は、昨年、獨協医科大学精神神経医学主任教授となっ
た下田和孝君(3期生)の特別講演を是非聴かねばと思っ
て出席した。

1981年に最初の卒業生を送り出しから卒業生は2713
名に上るといふ。1期生は既に50歳を過ぎ、今や働き盛
りの医師として各方面に活躍しており、諸兄弟の活躍ぶり
を聴くことは、教員の最大の楽しみである。

1974年秋に教授予定者として初めて案内された瀬田の
キャンパスは、当時、山を切り開いてやっと整地したばかり
の建物が何一つない荒れた赤土だった。これが私の滋賀
の原風景である。まさに昔日の感がある。

私は、1996年の定年退職後、妻の伯父が1960年に埼
玉県熊谷市郊外に開設した病院を手伝うために関東に戻っ
てきた。幸い、顔のつながりで東大の後輩の医師たちが常
勤、パートを合わせて10名も来てくれているが、彼らの
働き方にはどうしても人生の一つの通過点としての仕事だ
という気持ちがでてしまう。

医師の仕事は地域に密着したものである。医師会ネット
ワークにより近所の病人をうまくお世話することが本質で
ある。この他、私は治療の傍ら医師会付属の看護学校の講
義を担当して参加しているが、本来、そういう地味な仕事
である。代々地元の医家を継いだ医師たちはこのことを本
能的に体得しており、横のつながりは強固である。

大学や医局が縦のつながりとすれば、地元の横とが絡み
合ってネットワークを作っている。当院精神科では最近認
知症の入院が増え、家庭で世話しきれなくなった高齢者を
世話することが増えた。当院との長年の付き合いの方々、
その家族や知り合い、またその知り合いが、地元の他の病
院の評判と比較して、世話の行き届いた方を選んだ結果で
ある。看護師スタッフでも、この12年の間に5人のうちの
4人が私より新人になり、看護学校での教え子も38名
に上っており、スタッフの中心となって活躍している。

戦前、小学生のころは神様のように思っていた医者にな
るなど考えてもみなかったことだが、なぜか医師になっ
てしまって50年以上も経ってしまった。先輩として医師の
心得はと聞かれれば、「個々の症例からの教訓を大切にし
て、自らを育てる職人である。」ということだ。



下田氏と西村氏の講演

開催決定

2009年の関東支部会は、8月29日(土)です。

鈴木康夫さん(医1)の講演です。今から予定してください!

関東支部会10周年記念



左から2番目:高橋先生、左から3番目:下田先生

～2008年度滋賀医科大学同窓会
「湖医会」関東支部会に参加して～

獨協医科大学精神神経医学教室 主任教授

下田 和孝 (医3期生)

2008年8月23日品川プリンスホテルにおいて、毎年恒例
の滋賀医科大学・湖医会・関東支部会が開催されました。諸先輩、
同期、後輩の先生方、在校生のお目にかかる非常に貴重な機
会であり、2003年に獨協医科大学に転任以来、欠かさず参加
させていただいています。

今回は「オーダーメイド薬物治療について
-Pharmacogenetics、Pharmacogenomicsの展望-」とい
うタイトルで講演をさせていただきました。馬場忠雄学長が来
られるということを事前情報として得ていましたので、「第2
内科(当時)の臨床実習で当時のB場講師(当時)に土曜日の
昼過ぎまで厳しく指導された」というつかみでご参加の先生方
をなごませつつ始めようと思いました。しかし、恩師・高橋三郎
先生(滋賀医科大学名誉教授、獨協医科大学特任教授、埼玉江
南病院院長)もお越しになり、大変緊張してしまいました。今後、
小生も在関東の湖医会同窓会員の役に立てるように会を盛り
あげるお手伝いをしたいと考えています。



～ありがとうございました～

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
感覚運動系病態医学講座法医学分野 教授

西村 明儒 (医7期生)

この度は、関東支部会で講演の機会をいただきまして、あり
がとうございました。同級生や関東支部会の先生方と再会させ
ていただき感謝申し上げます。また、馬場学長先生や高橋三郎
先生とお会いできましたこと、望外の喜びでありました。

私は、阪神・淡路大震災時の死体検案結果とその後の調査研
究結果を中心としてこれまでに研究者、行政関係者、医療従事
者、一般市民の方々に幾度となくお話しさせていただいて参り
ました『死者から学ぶ防災対策』を少々アレンジしてお話しさ
せていただきました。途中羽目を外しそうな部分もあった
かとは思いますが、根の部分共有する集まりでお話しする
気楽さからとご容赦ください。色々ご質問もいただき、関東
支部会の活発な活躍を垣間見た気がいたしました。横浜市立
大学在任中は、近くにおりながらなかなか参加できずに失礼い
たしました。参加させていただきますと関東支部会の発展がう
らやましく、こちらで四国支部会を何とかできないものかと思
案しております。本当にありがとうございました。

新井良八君を偲ぶ



卒後20年同期会での新井良八君

新井良八君の同期の友人として、彼を偲びたい。彼は群馬県桐生の出身で、早稲田大学を中退して滋賀医大に第2期生として入学した。

何ごとにつけても真面目一徹・がむしやに立ち向かうタイプの人間で、力を抜きながら適当にやるということが苦手な性分だった。入部したラグビー部では、その性分と、あの胸厚の体躯で突進するライオンのような破壊力を十分に発揮して活躍した。新井本人は固辞したが、第2代キャプテンに指名され、結果として西医体準優勝というラグビー部の第1期黄金時代を築き上げた。その反面、彼は内省的で抑制的であり、自分を責めることも少なくなかった。この抑制が外れるのは酒を呑んだときだけだったので、その呑みっぷりもやはり徹底していた。酒にまつわる逸話がたくさん残る所以だ。学問でも、広く浅く勉強することは潔しとせず、理解するまでは先に進まずに徹底的に深く掘り下げるといふ、彼の性格通りの勉強法で押し通した。大学を卒業すると、解剖学第1講座に入門して研究者の途を歩み始めた。前田先生や木村先生などの指導の下、神経解剖学の研究に没頭した。中でも神経伝達物質MAOを

メインテーマとしていたこともあり、酒がはいると門外漢の我々相手にも熱く語っていたのをありありと思い出す。数々の研究業績を引っさげて仏・米留学から帰国すると、本学卒業生として初の教授に就任した（藤田保健衛生大）。このときには大学を挙げてその快挙に沸いたものだった・・・やっぱりあの新井がやったと。その後7年間は単身赴任で教育・研究に打ち込み、学生からも随分慕われた。7年後にはこれまた卒業生初の本学教授に就任し、母校に錦を飾った。

両大学では多くの共同研究者とタッグを組んで研究に励んだ。当時を振り返って、『楽しんで研究して、一緒に幸せになりましょう!』という言葉了新井先生からかけてもらって感動したことが忘れられない、という方がいたことを記しておきたい。

教育面でも彼は非常に熱心であった。再入院の病床にあっても解剖実習書の翻訳に精出していた。『この本は学生の解剖実習にとっても役立つから』と病室にパソコンを持ち込み、輸血パックからぶら下がった点滴ルートに気を配りながら最後まで努力して完成させたことは、その熱意の表れといってよいだろう。一方、教授という身分にありながらけっして偉ぶることなく、ときには自ら人間の弱さを披瀝

渡辺一良（医2期生）



若かりし頃の新井良八君(左から3番目) 筆者(左から2番目)

して、医療者には優しさが必要だということを学生に語りかけていた。

闘病生活の中で彼が常に言っていたこと・・・「みんな俺のために一生懸命やってくれて、本当にうれしいよ」。たしかに、外科学講座・4D病棟の皆さんをはじめとして、これに血液内科、精神科、脳神経外科、放射線治療部、医療情報部の面々など、また遠方から駆け付けてくれた皆さん、そして学生さん、ラグビー部員などなどが皆、治療に、また精神的支えとして関わってくれていた。このことは新井良八になりかわって厚く御礼を申し上げたい。彼は本当に、心底から感謝していた。

今その気持ちを分析すると、滋賀医大の同窓生が皆それぞれに立派な医療人に成長していること、そして自分のために協力して治療に当たってくれていること、この両方が新井にとって実にうれしかったのだらうと思う。

「湖医会」会員の皆さんとともに、彼の冥福を祈りたい。そして心から言いたい、新井、本当にありがとう。



Mayo Clinicに留学して



Gonda, Mayo building

18期生の奥村憲二といいます。滋賀医科大学外科学講座に所属しております。2007年の6月より、米国 Minnesota 州にある Mayo Clinic に留学しております。博士研究員として消化器癌の研究、特に抗癌剤関係の研究を行っております。

Mayo Clinic は全米に知られた総合病院で、Mayo College of Medicine という新設の医学校も併設しています。伝説的な外科医とされる Mayo 兄弟、及びその父親が設立した clinic に端を発します。全米での Best Hospitals で2位にランクされています。

Mayo Clinic のある町 Rochester は、この Mayo Clinic 以外には IBM くらいの企業しかなく、住民のほとんどが Mayo 関係者ではないかとささやかれるくらいです。逆にいうと雇用がしっかりとされているので、アメリカの都会の路地裏で時折感じられる危険とは全く無縁で、非常に安全な町です。夏は夜でも、ランニングすることができます。Mayo Clinic は Rochester の Down town にありますが、非常に巨大な外来の建物 (Gonda Building と Mayo Building) が中央にありその横に Methodist Hospital という入院病棟があります。その他にも多数の病院関連施設がありますが、研究棟も含めて全て地下通路でつながっており、冬の寒い季節にも外に出ずに周囲を往復できます (その他に少し離れたところにレンガ

滋賀医科大学外科学講座 奥村憲二

(医18期生) ポスと筆者



造りで歴史を感じさせる、重厚でこれまた巨大な Saint Marys Hospital があります。



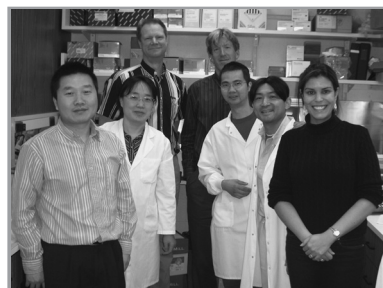
Rochester のある Minnesota 州は、冬は厳寒で最高気温が -20°C 以下の日も昨年は何度か経験しました。外では5分と歩けません。凍死する人もいます。外を歩いている人はまず見かけません。しかし、6月から8月頃は、太陽の光も気持ち良く、サイクリングなども楽しめます。首都である Twin Cities には全米で一番大きな indoor のショッピングモールと言われている Mall of America があります。又、Major Sports として、Major League Baseball (MLB) では Minnesota Twins、National Football League (NFL) では Minnesota Vikings、National Hockey League (NHL) では Minnesota Wild、National Basketball Association (NBA) では Minnesota Timberwolves があり、一年を通してスポーツ観戦が楽しめます。

私は、消化器癌の基礎研究をしておりますが、立場は Division of Gastroenterology and Hepatology 所属になっており、直属のボスは消化器医であり、又消化器癌の oncology clinic をしています。ほぼ毎日ある臨床の Lunch の Conference に実験の頃合をみて時間がある時は参加することができます。そこでは、最新の臨床の話題が討論されていて、臨床医としては非常に勉強になります。また外来を見学させて頂きましたが、部屋は広く多数あり、個々の患者が個室で診察されます。まさに consult といった感じで

す。時間に余裕をもって診察するので、専門の consultant がしっかり問題を解決するといった印象でした。日本でもここアメリカのように外来患者にももう少し余裕を持って医師が接することができればと感じました。又、全米から学生が夏休みの間、Summer School といって勉強、基礎研究にやってきます。彼ら彼女らは非常に熱心で意欲旺盛です。恐らく世界中から学生が集まっているので、滋賀医科大学のやる気のある学生も一定の条件をクリアできれば参加することができるのではないのでしょうか。後輩達が Summer School に参加して、若いうちに世界の学生達と交流し、刺激あふ、医学関係の研究ができるのであれば、それにこしたことはないのではないかと思います。



この原稿が『湖都通信』に掲載される頃には私は帰国していると思いますが、Mayo Clinic に関心のある学生さんがいれば、少しは話し相手になれるかと思います。



ラボの仲間達
(筆者右から2番目)



私の開業

さとう整形外科・リウマチ科クリニック 院長

佐藤 信幸 (医4期生)



みちのく岩手の整形外科は、雪が解けた春 3 月中旬から徐々に混みはじめます。雑草が芽吹いてきて婆さんたちの草取りが始まるからです。その後、稲の苗箱運びで腰を痛めたり、農繁期が始まると秋の稲刈りまで外来がにぎやかになり、雪が降って草取りが終わると婆さんたちも猫と一緒に炬燵で丸くなり、足腰の痛みも薄らぐので外来も閑散としてきます。冬場は、大雪のときの雪掻きで足腰を痛めたり、凍った道路ですってんころりと転んで背中や手関節の骨折が来る程度です。田舎では家屋敷周辺の草取りは、婆さんに取ってはたとえどんなに足腰が痛くても義務と言うもので、手を抜くと周囲の家からどんな陰口を言われるかわかりませんから、強迫観念でも持っているかのように夏場は毎日のルーチンワークですので、整形は需要が途切れません。痛かったらしばらく休みなと言っても、「ハア」と生返事が帰ってくるばかりで休むわけにはいかないようです。その点経営的にはありがたい (笑)。

私が開業したところは、岩手県南部で奥州藤原氏建立の中尊寺のある平泉町の北隣で、以前前沢町と言っていた (今は合併して奥州市と言う大仰な名前になりました) 私の生まれ故郷です。但しこの土地に特になじみが深かったわけではありません。小学 1 年夏までここで暮らした後は、父親の転勤で仙台に転校しそこで予備校まで住んで滋賀に行ったわけで、故郷の記憶は少なく馴染むのに時間がかかりました。滋賀医大を受験した年は、国立一期校二期校と言う制度が残っていた最後の年度で、滋賀医大はなぜか一次試験と二次試験を行っていてその特異性からか多少敬遠されていたようで、その便利な地域性の割には穴場だったのです。尚且つ高校時代にボート部だったので琵琶湖でボートを漕

ぎたいと言う気持ちと、東北を一度は出てみたいと言う気持ちがあって志望したのでした。まあ東北大医の可能性が厳しいと言う事情はありましたけどね。

4 期生では、東北出身が 4 人いました。が現在帰ってきているのは山形の板坂と私だけ、全体では同窓生名簿を見ると東北に 10 名余りが在住しているようです。大学時代は、入った当初はカルチャーショックでしたが仲間に恵まれてそりゃもう遊びましたし、ボートも 6 回生まで 6 年間漕いで、西医体には 6 回出て金メダル 2 個と銅メダル 1 個、関西選手権と言う実業団大学オープン大会で銀メダル一個獲って、インカレにも 2 回出ました。また、アフターでは関西では言葉に出してアピールできないやつは能力がないとみなされ相手にされないところがあり、宴会に彼女を連れて言っても平気で他のやつらに口説かれたもんなー。東北人はあうんの呼吸と言うか「男は黙ってサッポロビール」みたいなところがあって、おしゃべりな奴は軽んじられるところがあります。しかしながら関西で本音をバンバン言いあうところはまことに痛快で、少しずつ自分も影響されてしゃべれるようになったのが外来では役立っているようです。

卒後は、学生時代に追試の勉強会でお世話になった同級生の清水禮二さんに誘われて医療生協さいたまの研修医となりました。同じくお世話になった追試仲間には後の清水夫人となる神沢縁さんがいて、その御夫婦と私の 3 人で埼玉に入職したのでした。市民がお金を出し合って生協を作った病院を建てて自分の健康を守ろうという思想には共鳴しましたが、最終的にはイデオロギーについていけなくていつかは故郷に戻ろうと考えていました。

2 年目の 1985 年に山形大学整形外科

学教室に入局。7 年間大学および関連病院で修業した後、埼玉協同病院に戻り 6 年間科長として働き、40 歳のときに生まれ故郷に初めて町立診療所ができると言うので、誘われて 1998 年に戻ったのでした。7 歳で町を出てから 33 年ぶりでした。町に新しくできた施設は、翌年施行の介護保険を見据えた医療介護福祉一体型の複合型施設で、そこに行けば 1 ヶ所で健康の問題が完結できるという目標で作られました。10 歳上の内科所長と 2 人で始め、途中内科医、眼科医 1 名ずつ増え最高 4 名まで医師が増えましたが、開設に奮闘した当時の町長さんが選挙で負けて対立候補が町長になって以降は町との関係がギクシクして、まず所長が辞めてその後自分もどうにも公務員と言う立場に馴染めず退職し 2005 年 10 月に開業しました。

開業約 1 年前に準備を始め、まずコンサルタントは山形時代からお世話になっていた、仙台が本社の医療機器販売会社にしました。また資金は地元の信用金庫に勤めている 1 つ年上のジョギング仲間に、地元の運動場で走りながら「開業したいんだけど金貸してくれるかなー？」って聞いたなら、翌日近所の支店長を紹介してくれて、さしたる困難もなくあっさり OK されました。自己資金はかき集めて一千万と言ったら、ゼロでいいからと言ってもらえたので子供の学資保険を解約せずに済みました (笑)。土地も町内で唯一のスーパー「ジャスコ」の近くの新しい商店街の売れ残っていた公有地をすぐ見つけてくれて、坪 11 万で 325 坪購入。建物は 6600 万円位でそれやこれやで借入金は 1 億 3500 万となりそれ以外にリースの借金が 3000 万となりました。

看板のオールは、滋賀医大ポータ部の
ブレードを参考にしました。



人口 15000 人の町で、私が唯一の整形外科医です。町立診療所時代の患者さんが 8 割くらいそのまま来てくれて、初年度から 1 日平均 70 人程度の患者数でさしたる苦労もなく丸 3 年になりました。特にコンセプトはありませんが、職員は基本的に常勤として保険や年金、ボーナスや退職金積み立ても入ってます。これは、公立機関勤務時に余りに公務員と非公務員の格差があり、組織の一体感が得られなかった苦い経験からです。特に介護施設では公務員は事務職 3 名だけで、それ以上公務員を増やせないとの事に現場の介護職は 70 余名全員、1 年単位の嘱託かパートでした。ボーナスも退職金もなく毎年 4 月 1 日に新しく雇用を更新するような職場で職員のモチベーションも上がらず、こっちも高度な要求も出来ませんし、能力のある人から辞めて他の施設の常勤となってしまう。そんなことは避けたいと、自院では高い給料ではありませんがみんな常勤としてやりがいある職場にしたかったというところ。🐞

医療内容では、もちろん一般的な整形外科的疾患が中心で、急性期には安静・固定、注射（トリガー、ブロック）、物療等を組み合わせて早く除痛を図り、慢性期には運動療法を積極的に施行し能力維持・再発予防を目指すメリハリのついた診

療を心がけてます。また診療の大きな柱に「関節リウマチ」を据えており、これは岩手県南部（面積にして四国の半分程度）に日本リウマチ学会リウマチ専門医が私も含めて 4 人しかおらず、満足な治療が受けられていない患者さんが多くおられたと言う地域事情があり、最近はかなり遠方の町からも口コミで来ていただけるようになりました。これまで、わざわざ 100 キロも離れた盛岡の専門医まで通っていた患者さんも多く、研究会などで知己を得た先生方から近在の患者さんを紹介される例も多くなり、現在リウマチ患者さんは 200 名を越す程度になりました。治療は MTX をメインに、適応により生物学的製剤も使用しており、今後とも全国レベルの治療を提供したいと考えてます。🐞

診療態度としては、疲れたときほど半音上げてしゃべり（ジャパネットたかたの社長のよう）、元気よく応対するようにしています。これは山形の研修医時代に和歌山出身の先輩から学びました。患者さんの要求にはできるだけ答えやさしく対応するように心がけていますが、どうしても時にわけのわからん患者さんに声が大きくなることがあり後で反省しています。外来には当初より予約枠を設け、30 分に 5 人の診療枠を設けそのうち 3 人まで予約を入れていたのですが、2 年やった結果として私は 30 分に 5 人は手早く診れないことが殆どで、昼頃にはいつも診察予定時間を 1 時間以上遅れてしまっていたので、半年前から 30 分 4 人枠に減らして予約も 2 人ずつに減らしてしまいました。その結果、診察予定時間はほぼ守れるようになったのですが、日によって 9 時頃来た人も 12 時頃の診察枠になってしまったり、終わりの時間が延びて昼休みがなくなったりなかなかうまくいきません。それやこれやで現在 1 日約 90 人位の患者さんに来ていただいております、そのうち約 70 人くらいを実際診察しています。いわゆる・・・のみ患者さんが少ないのですが、これは私の、物療に毎日

通わせて何の意味があるんだという考えからでしたが、直接診察できる人数はほぼ限界に近づいており、経営的にリハ患者を増やすようにすべきか職員ともども検討中です。

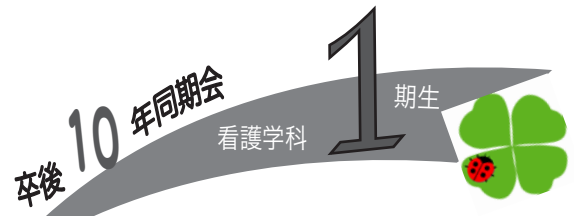
🐞
四期生の開業医仲間「53 会」という組織があり、年 1 回の例会に行くといつも同期生の開業の先達に重要な情報を教えられ自分の甘い経営を笑われていますが、田舎であくせくのんびりやることが自分の器ではないかと思っています。私も今年 50 となり滋賀医大を卒業した歳の 2 倍生きたことになりました。同期で亡くなったやつもいて、自分の人生も第 4 コーナーを曲がってきたという感は深いです。仕事もそうですがそれ以外も楽しみたいし、次の目標は開業 10 年経ったら土曜を隔週にして 4 週 6 休にしたいな（小さい夢だな）。

湖都通信では、同窓生の活躍を見るのがいつも楽しみです。私の人生の中で滋賀で暮らした 6 年間は一番楽しかった時代ですし、かけがえのない仲間・恩師そして女房（大学病院放射線科・眼科病棟の看護師でした：仲人は当時の放射線科教本助教授）を得ることが出来ました。私に医師の道を与えてくれた滋賀医大を卒業できたことを誇りに思いますし、同窓生の皆さまにも東北にも同胞が元気でやっていることを知っていただけたらなと思い、拙い文章を綴ってきました。同窓生の皆さま、東北にお立ち寄りの節は岩手前沢にもどうぞいらっしゃってください。松坂牛、近江牛と競っている「前沢牛」を、御馳走しますよ。（終）





看護学科1期生が母校を巣立って10年が経ちました。看護学科で初めての「卒後10年同期会」が開催され盛会に終わりました。
「5年同期会」から「たった5年」の短い月日のように思われますが、1期生の皆さんは、公私ともに大きな変化があったようです・・・



びて、いっぱいエネルギーをもらって、大きく成長できそうな、ワクワクした気持ちがわいてきました。次に逢う時には、花が咲いているといいな。

素敵なナースの森ができる同期会。大切な時間を一緒に過ごした仲間が戻る、みんなの森をこれからも育てていこうね。

遠くは筑波からこのためだけにお越し下さった浅野先生、そして西島先生、安藤先生、滝澤先生、懐かしい先生方にお会いでき本当に嬉しかったです。ありがとうございました。幹事の皆さんありがとう。また皆さんにお逢いできる日を楽しみにしています。



卒後10年という節目の会に参加して

滋賀医大看護部

安藤 光子

大学院を修了後滋賀医大に再就職してくれた白石さんに、「何年経ったんだっけ?」と尋ねたら、「もう10年です」。「記念すべき10年だし、当時の先生方にも案内を出そうよ」という私の勝手な提案も受け入れてくれて、11月22日に同期会が実現しました。西島先生、浅野先生、遠藤（滝澤）先生、22名の1期生とその子どもたちの参加があり、出席できなかった先生方や1期生からのメッセージもたくさんありました。

「実習の時、先生に〇〇〇〇って言ってもらって」など、思い出話が出て和んだ雰囲気になると、いつの間にか10年前にタイムスリップしているような不思議な時間になりました。でも本当に、みんなあの頃のまま素直でどっか素朴で、ほっとできるなつかしさを感じさせてくれました。30代としての思いや迷いのただ中にある1期生、これからも見守っているので、いろいろな事を乗り越えて成長してほしいなと心から思いました。

この木なんの木10年目



HITACHI

上間 美穂

学生時代も卒業してからも、私の人生は失敗ばかり。その度に枯れて腐って、5年目会では死亡説まで流れて、すっかり伝説の人になっていました。

そんな私の枯れて腐って、もうダメだと思われていた木の幹は、嵐にも負けない丈夫な木に強くたくましく医大で育てられていました。恩師や同期の仲間を支えられた大地、その下の見えないうちでしっかりと根をはって、青空に向かって伸びようとしていました。日々の生活で忘れそうになっていた、医大で育んだ大事なことを、この同期会が教えてくれました。

この木なんの木は、名前の知らない木に、見たこともない花が咲き、みんなが集まる実がなります。10年目にして私の木は、やっと若葉が芽生えてきたところです。みんなのキラキラ輝く光を浴



看護1期生同期会



(株)ベネッセスタイルケア

江部 知子

2008年11月22日、京都駅ビル「がんこ」にて開催された同期会では、恩師の西島先生、浅野先生、滝澤（遠藤）先生、安藤（今給黎）先生をはじめ、遠方から、はたまた仕事に育児に奔走する同期生や子供達など、懐かしい顔ぶれに囲まれ、とても賑やかで楽しい時間をすごす事ができました。まずは忙しい中、開催準備を行ってくれた白石さんを筆頭に幹事の皆さん、「湖医会」事務局の皆さん、本当にありがとうございました。当日は、参加できなかった方からのメッセージも共有しつつ、お互いの近況報告に盛り上がりましたが、なんといってもバックに使われたスライドに驚きました。時を遡ること、おそらくは大学受験時の願書ではなかろうかという写真が映されていったのです。10年一昔、時間がたつのは早いものです。外見だけの事ではなく、私達は社会においても家庭においても、それぞれの時間を、全く別の立場と環境で過ごし、成長し、それぞれの人生を歩んできました。ただそれでも、こうして同期が集まるだけで、そんな言葉は嘘のように、会った瞬間に「きゃ〜久しぶり〜!!」とすべてを飛び越え、互いの近況や日常に共感し合える仲間は、本当に大切だと感じる事ができました。今回会えなかった同期の皆さんも、10年、20年先にでも、いつかまた同期会などで会える事を楽しみにしています。きっとまた、会わずにいた時間を飛び越え、すぐにおしゃべりできますよ。



保健師部会

2008年12月13日(土)、毎年恒例の『保健師部会』が行われました。もともと『保健師会』として1期生の卒業後、県内の保健師が集まりスタートしたのですが、2006年に「湖医会」『保健師部会』になりました。これにより「湖医会」は案内・報告の送付やMLの運営等のサポートをしています。同窓の保健師の集まりということで、仕事に対する気概や悩みなども自由に話せ、また貴重な情報交換の場にもなっています。

当日の幹事さん二人に感想を尋ねてみました…

～保健師部会に参加して～

中村 友希子 (10期生) 写真左

私は、昨年度は看護師として働いていたので、保健師部会という存在をよく知らず、保健師の交流の場があるということを知った程度でした。今年度から私は非常勤で保健師としており、同期の友人に声をかけてもらって参加させてもらうことになりました。初めての参加でしたが、私は幹事担当学年として、開催にあたっての準備から参加させてもらいました。右も左も分らず正直大変な部分もありましたが、滋賀医科大学同窓会「湖医会」の方々や先輩方、同期を含め、皆さんの御協力もあり、無事開催することができました。顔見知りの方も少ないため、交流会当日まで不安でした。しかし、会場で皆さんとお出合いして、そのような不安は吹っ飛んでしまいました。フレンドリーな方々ばかりで、初めての私でもすぐにその場に馴染むことができました。途中の質問コーナーでは、様々な意見交換がありました。同じようなことで悩んでいる人もいたんだ、私も頑張ろうと勇気づけられたり、経験豊かな先輩方の意見や勉強法を知ることができたり、それぞれの分野の保健活動や職場の現状などの話が聞けたりして、とても有意義な時間となりました。転職のことや結婚のことなど興味深い話題もあり、懐かしい学生時代のことなどを話したりし、交流会は終始和気あいあいとした楽しい雰囲気でした。

最後に、このような情報交換ができる機会はめったになく貴重なものですが、残念ながら保健師部会は年に一度しかありません。そこで、その間は情報交換の媒体としてメーリングリストを活用できればと思います。皆さんの活発な情報交換をよろしくお願い致します。また、今までに参加されたことがある方はもちろんですが、参加されたことがない方もぜひ次回の保健師交流会に参加していただきたいと思います。私と同じように参加してよかったと思ってもらえる方がおられれば嬉しい限りです。



…………… (財) 京都工場保健会健診技術課

小倉 由佳梨 (10期生) 写真右

保健師として働く卒業生が集まる交流会が毎年開催されており、今年度も例年通り12月に開催されました。今回は9、10期生が幹事担当学年ということで、私たち10期生も幹事として参加しました。参加者は1期生から11期生までの17名で、ベテランの方から新人の方まで幅広い層の交流会となりました。私は今回幹事ということもあり、昨年の交流会より緊張して参加していたのですが、和気あいあいとした雰囲気の中で楽しい時間を過ごすことができました。

前回同様参加者に質問票を事前に配り、先輩、後輩に聞いてみたいことを記入してもらい、それを基に質問し答えてもらうというを行いました。質問内容は勉強方法からプライベートまでいろいろなものがありました。今回は質問として特に多く挙がっていたもの数個についてたくさんの意見をもらうという進め方だったため、とても参考になる意見をたくさん頂けたと思います。皆さん保健師ということもあり、話し上手、聞き上手な方ばかりでとても楽しくお話できました。

保健師は都道府県市区町村に勤める場合が多く、この交流会に参加された方の多くもそうでしたが、中には産業保健師の方もいらっしゃいました。そのため、様々な分野の方のお話を聞くことができ、より有意義な時間となったのではないかと思います。今後ともこのような有意義な交流会となるよう、幅広い分野の方に参加して頂きたいと思いました。

最後になりましたが、今回の交流会を開催するにあたり、助けていただいた滋賀医科大学同窓会「湖医会」の皆様には感謝するとともに、今後とも保健師部会がさらに充実したものとなるよう尽力したいと思います。

保健師部会に参加しませんか

富山県魚津市健康センター

亀田 諭可 (看3期生)



今年1年、保健師部会の会長の職に就くことになりました亀田です。

今年は、残念ながら先生方の都合がつかず卒業生の方のみの交流会となりましたが、1期生から卒後1年目の方までたくさんの方に出席していただきました。

とくに新人期には、仕事などでたくさんの悩みがあると思います。限られた短い時間でしたが、先輩保健師さんから自分の経験をふまえたアドバイスをもらったり、他の職場での保健活動を聞いたり、勉強方法についての情報を交換したりと、とても貴重な時間になったのではないのでしょうか。私自身も、年に1度のこの交流会で、「私ももう1年がんばろう!」という

元気をもらっています。

残念ながら交流会に参加できなかった方もおられますが、メーリングリストを活用して、積極的に情報交換していけばいいなと思っています。まだ保健師部会に入会されていない保健師の皆さん、ぜひご連絡をお待ちしています。

なお、私は「湖医会」の幹事でもあるのですが、この「保健師部会」は資金・運営面で「湖医会」のサポートを受けています。

皆さん、「湖医会」の年会費も忘れずにお支払いください。

(保健師部会に参加希望者は「湖医会」事務局にご連絡を!)

総会報告

2008 年 10 月 25 日に行われた総会では主に「湖医会」会則の変更と役員選出規程について話し合われました。
会則改正では、学生を正会員化すること（2007 年度総会で承認）と会則を整合させました。また役員については選出方法や任務などが見直されました。（下記に会則の変更点を掲載）
役員選出については「役員選出規程」を設けることになり、2009 年度の役員改選から実施されます。
（会則・役員選出規程の全文はホームページをご覧ください）

- <議事録>
- 1, 2007 年度事業報告 <承認>

2, 2007 年度決算報告 <承認>

3, 2007 年度奨学金収支報告 <承認>

4, 2008 年度事業計画案 <承認>

5, 2008 年度予算案 <承認>

6, 会則、規程の整備・・・部分修正後 <承認>

7, その他

<会則の改正箇所>

- 第 1 章 名称

(新) 第 1 条 本会は、滋賀医科大学同窓会「湖医会」と称する。但し、**湖醫会**を用いてもよい。

(旧) 第 1 条 本会は、滋賀医科大学同窓会（湖醫会、湖医会）と称する。
- 第 2 章 事務局

(新) 第 2 条 本会は、事務局を原則として滋賀医科大学内に置く。

(旧) 第 2 条 本会は、事務局を滋賀医科大学内に置く。
- 第 5 章 会員

(新) 第 5 条 本会は、次に掲げる会員を持って構成する。

1. 正会員

1) 滋賀医科大学卒業生（以下卒業会員という）

2) 滋賀医科大学学生（以下学生会員という）

3) 本学卒以外の本学大学院生及びその修了者で入会を希望する者（以下大学院会員という）

2. 特別会員

正会員以外の滋賀医科大学の学長、副学長、教授及び准教授、講師及び、学長、副学長、教授、准（助）教授、講師にあった者

3. 賛助会員

本会の目的に賛同し、入会を希望する以下の者のうち常任幹事会の承認を受けた者

（1）滋賀医科大学の教職員および元教職員

（2）滋賀医科大学において研究、研修に従事しているか、かつて研究、研修に従事した者

4. 名誉会員

本会に対し特別の功績があった者で、会長が推薦し幹事会で承認された者

(旧) 第 5 条 本会は、次に掲げる会員を持って構成する。

1. 正会員

○ 滋賀医科大学卒業生

○ 滋賀医科大学学生、滋賀医科大学大学院生

○ 滋賀医科大学修了者で入会を希望する者

2. 特別会員

正会員以外の滋賀医科大学の学長、副学長、教授及び准教授、講師及び、学長、副学長、教授、准教授、講師にあった者

3. 賛助会員

本会の目的に賛同し、入会を希望する以下の者のうち常任幹事会の承認を受けた者

（1）滋賀医科大学の教職員および元教職員

（2）滋賀医科大学において研究、研修に従事しているか、かつて研究、研修に従事した者

4. 名誉会員

本会に対し特別の功績があった者で、会長が推薦し幹事会で承認された者

- (新) 第 6 条 会員の権利と義務
1. 全ての会員は会則を遵守する義務を有し会則に定められた権利を与えられる。
2. 会員は、会長その他の役員の要請に応じ本会の事業に協力しなければならない。
3. 会員は、住所、氏名、役職等身分に変更の生じたときは、遅滞なく、事務局に報告しなければならない。
4. 正会員のうちの卒業会員と大学院会員は、規程において定められた会費を納めなければならない。また既に納めた会費の返還はしない。
5. 正会員のうち会費を担う卒業会員及び大学院会員は、総会に出席し討議する権利と義務を有する。但し、委任状をもって出席に代えることができる。また学生会員は総会でオブザーバーとして発言することができる。
- (旧) 第 6 条 会員の義務
1. 会員は、会長その他の役員の要請に応じ本会の事業に協力しなければならない。
2. 会員は、住所、氏名、役職等身分に移動の生じたときは、遅滞なく、事務局に報告しなければならない。
3. 会員は、会則において定めた会費を納めなければならない。また既に納めた会費の返還はしない。
4. 会員は、総会に出席しなければならない。但し、委任状をもって出席に代えることができる。

- 第 6 章 役員
- (新) 第 7 条 本会には正会員の中から選出し次の役員を置く。
1. 会長 1 名
2. 副会長 若干名（医学科及び看護学科の卒業生より各 1 名以上、事務局担当 1 名）
3. 幹事 各卒業年度より若干名、及び特に立候補する者
4. 常任幹事 若干名
5. 監査役 若干名
- (旧) 第 7 条 本会には会員の中から選出し次の役員を置く
1. 会長 1 名
2. 副会長 若干名（医学科卒業生及び看護学科卒業生より各 1 名以上）
3. 幹事 各卒業年度 若干名
4. 常任幹事 若干名
5. 会計 1 名
6. 監査役 若干名
- (新) 第 8 条 役員の選出
1. 常任幹事以外の上記役員は、総会において正会員からこれを選出する。但し、監査役は正会員に限らない。
2. 常任幹事は会長が幹事の中から選び、幹事会で承認する。

	3. 監査役は他の役員を兼任できない。 4. 幹事会は、役員が欠けたときは、仮役員を任命できる。但し、仮監査役を任命することはできない。 5. 役員選出の運営は役員選出規程に基づいて行う。
(旧)	第 8 条 役員の選出 1. 常任幹事以外の上記役員は、総会において正会員からこれを選出する。但し、監査役は正会員に限らない。 2. 常任幹事は会長が幹事、会計の中から選び、幹事会で承認する。 3. 監査役は他の役員を兼任できない。 4. 幹事会は、役員が欠けたときは、仮役員を任命できる。但し、仮監査役を任命することはできない。
(新)	第 10 条 役員の任務 1. 会長は、会務を総理し、本会を代表する。 2. 副会長は、会長を補佐し、会長不在の時は、その職務を代行する。 3. 事務局担当の副会長は、事務局規程に基いて会の円滑な運営に努める。 4. 幹事は、会員の意見を反映するよう努力し、また幹事会の運営に協力し、応分の会務掌理を担う。 5. 常任幹事は、幹事会で承認を得た会務を掌理し執行する。 6. 監査役は、業務および会計を調査、報告し、差し止める。 7. 監査役は、他の役員を補充できない。
(旧)	第 10 条 役員の任務 1. 会長は、会務を総理し、本会を代表する。 2. 副会長は、会長を補佐し、会長不在の時は、その職務を代行する。 3. 幹事は、会務を掌理する。 4. 常任幹事は、幹事会で承認を得た会務を掌理し執行する。 5. 会計は、本会の会計を掌理する。 6. 監査役は、業務および会計を調査、報告し、差し止める。 7. 監査役は、他の役員を補充できない
第 7 章 会議	
(新)	第 11 条 本会の会議は、総会、幹事会及び常任幹事会とし、各会議の運営は会則および規程に基いて行う。
	第 12 条 総会の開催及び議決 1. 定時総会は、毎年 1 回、会長が招集する。 2. 総会は、委任状も含めて、正会員のうち卒業会員及び大学院会員の 1 / 10 以上の出席をもって成立し、議決は、出席会員の過半数を持って決する。但し、賛否同数の時は、議長の決するところによる。 3. 総会の議長は、幹事会にて互選する。 4. 会長が必要と認めたとき、または幹事会の請求または正会員のうち卒業会員及び大学院会員の 1 / 10 以上の請求または監査役の請求があったときは臨時総会を招集しなければならない。
(旧)	第 11 条 本会の会議は、総会、幹事会及び常任幹事会とする。 第 12 条 総会の開催及び議決 1. 定時総会は、毎年 1 回、会長が招集する。 2. 総会は、委任状も含めて、正会員の 1 / 10 以上の出席をもって成立し、議決は、出席会員の過半数を持って決する。但し、賛否同数の時は、議長の決するところによる。 3. 総会の議長は、幹事会にて互選する。 4. 会長が必要と認めたとき、または幹事会の請求または正会員の 1 / 10 以上の請求または監査役の請求があったときは臨時総会

	を招集しなければならない。
(新)	第 14 条 幹事会 1. 幹事会は、会長、副会長、幹事をもって構成される。 2. 幹事会は、第 4 条に定めた事項及び庶務について協議、決定し事業の執行に当たる。 3. 幹事会は、毎年 2 回、会長がこれを招集する。他に、会長が必要と認めたとき、及び幹事の 1 / 3 以上の請求または監査役の請求があったとき、常任幹事会の請求があったときは会長が臨時幹事会を招集する。 4. 幹事会の議長は、互選による。 5. 幹事会は、委任状を含む過半数の出席をもって成立し、過半数をもって決する。但し、賛否同数の時は、議長の決するところによる。 6. 監査役は幹事会に出席し、意見を述べることができる。
(旧)	第 14 条 幹事会 1. 幹事会は、会長、副会長、幹事、会計をもって構成される。 2. 幹事会は、第 4 条に定めた事項及び会計、庶務について協議、決定し事業の執行に当たる。 3. 定時幹事会は、毎年 2 回、会長がこれを招集する。他に、会長が必要と認めたとき、及び幹事の 1 / 3 以上の請求または監査役の請求があったとき、常任幹事会の請求があったときは会長が臨時幹事会を招集する。 4. 幹事会の議長は、互選による。 5. 幹事会は、委任状を含む過半数の出席をもって成立し、過半数をもって決する。但し、賛否同数の時は、議長の決するところによる。 6. 監査役は幹事会に出席し、意見を述べることができる。

第 9 章 会計	
(新)	第 18 条 本会の経費は、次の収入をもってこれに当てる。詳細は会費等規程に定める。 1. 年会費 2. 寄付金 3. その他の収入
(旧)	第 18 条 本会の経費は、次の収入をもってこれに当てる。 1. 年会費 2. 寄付金 3. その他の収入
第 11 章 その他	
(新)	第 22 条 賞罰・入退会 <追加> 特段の貢献ある者の表彰、特に名誉や会則に反した者への対応、及び入退会の承認については別途規程に基づいて行う。 第 23 条 規程・細則 本会の会務に必要な規定・細則は、常任幹事会で審議し、幹事会の議決を経て別に定める。
(旧)	第 22 条 規程・細則 本会の会務に必要な規定・細則は、常任幹事会で審議し、幹事会の議決を経て別に定める。
(新)	付則 この会則は、2008 年（平成 20 年）10 月 25 日から施行する。 <追加>

議事録	2008年度第1回 常任幹事会 / 第47回 幹事会 日時：2009年2月17日 19:00～12:10 1, 2009年度の役員改選にむけて役員選出規程に則り、選挙管理委員として相見良成氏（医5）・村下淳氏（医11）・田中裕之氏（医16）の3氏が常任幹事会で選出され、幹事会の承認を得て決定された。 2, その他の会の運営に関わる規程・細則の整備ついて、常任幹事会で検討しメール幹事会の承認を得て施行することが確認された。
-----	---



Little Window

ご寄付のお礼

看護学科1期生

同期会の余剰金を「湖医会」奨学金と一部を事務局の備品等の購入に充当させていただきました。

ありがとうございました。
厚くお礼申し上げます。



松井善典（医 25 期生）

私は勤医協中央病院総合診療部で内科病棟研修+内視鏡トレーニング中です。来年からは再び北海道内の診療所に勤務予定です。そして数年後には滋賀の診療所に赴任したいと思っています。2008 年4月には大学の後輩と、6月には札幌医大の藤宮教授とお会いする機会がありました。そして最近この3

人で会う機会ができ、“滋賀と北海道を愛する会”をつくりました。

恩師である藤宮先生との再会を果たせたのは、湖都通信のおかげでした。心から感謝しております。

普段は何かと顔の見えない同窓生ですが、皆様のお陰でよい出会いがあったり、支えが増えたりしています。

勤務医師賠償責任保険の保険料が安くなります！

＜引受保険会社＞ 東京海上日動火災保険（株）

「湖医会」が窓口の団体割引により



保険料 15% off

申込手続きは初回のみ。自動更新で手間入らず

保険料は口座自動引落しで振込の手間入らず

この機会にぜひ、ご加入・切替ください

保険申込締切は **4 月 10 日**

加入希望者は「湖医会」事務局、または

＜取扱代理店＞ （株）東海日動パートナーズ滋賀 電話：077-510-1470 土日連絡先：090-6903-8000（熊谷）

＜取扱サポルト＞ 電話：0740-24-7090 土日連絡先：090-3050-8449（中川）

にご連絡ください。

随時、中途加入も可能です！

学生のみなさん ★
どしどしご利用ください

「湖医会」奨学金

「藤原よしみ」奨学金



詳しくは、「湖医会」事務局
または学生課へお問い合わせください！

第8回『湖医会賞』

締切：2009年6月30日

受賞候補者募集中！

ホームページでも案内しています <http://www.koikai.org>

研究領域
教育領域
臨床・福祉領域
その他の領域

各分野で活躍する卒業生をご推薦ください。
自薦他薦は問いません。

『湖医会賞』とは・・・

研究や学生等の教育、地域医療等の臨床・介護・福祉その他の領域で優れた実践を行い、医学および医療・福祉の向上に貢献した「湖医会」会員に対して、賞状ならびに副賞（20万円）をもってその栄誉を称えるものです。

ただいま、第8回「受賞候補者」を募集しています。自薦・他薦を問いませんので、多数ご応募ください。

応募方法 FAX 077-548-2094 または メール koikai@koikai.org
詳しくは事務局へお問い合わせください

ご協賛
ありがとうございます

株式会社三和化学研究所
ヤマサ醤油



中外製薬株式会社
日本ケミファ株式会社



ヤンセンファーマ株式会社
（順不同）